

学校教育計画（令和6年度～令和9年度）

学校名	藤沢総合高等学校	課程・学科 教育部門・学部	全日制課程総合学科
-----	----------	------------------	-----------

1 学校のミッション

- 全日制的課程単位制総合学科を設置する高校として、共通教科及び専門教科にわたる多様な科目の中から生徒が主体的に履修したい科目を選択でき、生徒の興味・関心や進路希望等に応じた学習を可能にするという総合学科の特質を生かし、「系列」に応じた系統性のある学習を確保することで、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に伝えるよう、学力の育成、豊かな人間性や社会性の涵養、社会的・職業的な自立等をめざした教育課程を適切に編成する。
- 社会の有為な形成者としての自覚を有する人間の育成をめざし、夢や目標を持って主体的・協働的に学ぶ力を身に付け、豊かな人間性と社会性を培い、人生を切り拓く資質・能力を育成するための教育に取り組む。
- 学ぶことの楽しさや達成感を体験させる学習を展開する中において、知識・技能を生かし、課題を発見し解決を図る力や論理的思考力を育み、自らの考えを多彩に表現する力を向上させ、主体的に学ぶ意欲を高めることをめざした不断の授業改善を実施する等、教育活動の充実に取り組む。

2 学校教育目標

- 夢や目標を持って主体的・協働的に学ぶ力を身に付け、豊かな人間性と社会性を培い、人生を切り拓く資質・能力を育成する。
- 知識・技能をいかし、課題を発見し解決を図る創造力や論理的思考力を育み、自らの考えを多彩に表現する力を向上させる。
- 社会的・職業的な自立をめざし、教養と行動規範を身に付ける個に応じた指導・支援を充実させる。
- 学校組織力の向上と教育改善に不断に取り組み、家庭や地域との連携を深め、開かれた学校づくりを推進する。

3 計画策定時点での課題

- セメスター制の改善成果について、課題研究の探究的な学習の進め方、シチズンシップの視点を取り入れた学習の進め方について評価を共有し、さらに望ましい形を模索していくために、学校内外からの意見を聴取するなど研究を進める必要がある。
- 部活動入部率、定着率の向上、活性化を図り、外国につながる生徒が学校行事に積極的に参画する体制づくりを検討する必要がある。
- 外国につながる生徒に対するより望ましい支援の方策を検討し、在学の3年間とさらにその先を見通した指導、支援態勢を整える必要がある。
- 生徒の多様性を踏まえた教育相談、生徒の主体性を生かした学校行事や部活動、防災を含めた地域との連携等を通して、生徒の自己有用感を醸成していく手だてを検討する必要がある。

4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を養うため、授業計画、日課時程の再検討に取り組む。 課題研究の進め方やシチズンシップの視点を取り入れた取組について、研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> Semester制の利点を生徒・職員で共有し、学校行事の配置も含めた教育課程の展開を検討する。 ICTを活用し、社会に目を向けた課題解決型学習及び発表形態などのプログラム作成を検討する。
2	生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や部活動を生徒の視線から見直して充実させ、自己有用感の醸成に結び付ける。 外国につながるのがある生徒への学習支援を含め、SC、SSWや外部機関とも連携した支援を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部資源を生かした部活動や学校行事への支援を行い、それを校内外へ広報することで活性化を図る。 プッシュ型面談や放課後の学習支援など、教員と生徒が直接関わる場面を生かし、迅速で組織的な支援を図る。
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後を見据えて、外国につながる生徒の学習や生活指導体制を整える。 生徒が自身や社会の課題に向き合い、解決に向けて学び続ける姿勢の涵養を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国につながる生徒への進路支援について、外部資源から情報収集し、実情を把握して支援につなげる。 指定事業でのデジタルシチズンシップの研究成果を生かし、身近なところから社会性を養い、進路を考えさせる。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりが学校から地域等へ向ける視線を育み、ボランティアや地域等との協働に取り組む姿勢の涵養に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動や学校行事を通して、地域等との連携に参加する生徒を増やす。 地域のニーズを汲み取り、防災防犯の在り方を含めて、ともに取り組む態勢を検討する。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科としての多彩な事業に取り組むことを通して、教員の協働性や組織力及び教育力を伸ばす。 職場の協働性を育むことを通して、労働時間の短縮に取り組むとともに、不祥事を未然に防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の協働性や組織力の向上を目指し、労働時間の短縮を図るため、教科・系列内での連携を推進する。 不祥事防止に係る会議、研修を計画的に実施する。